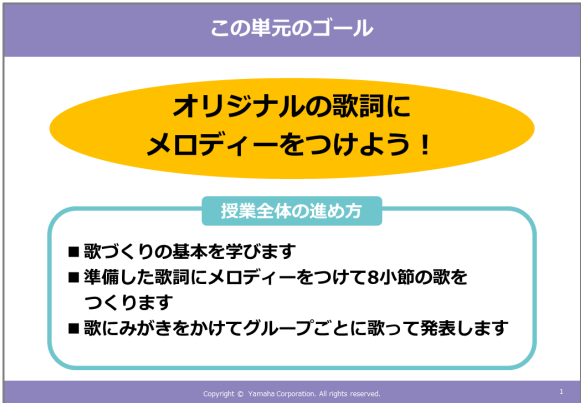
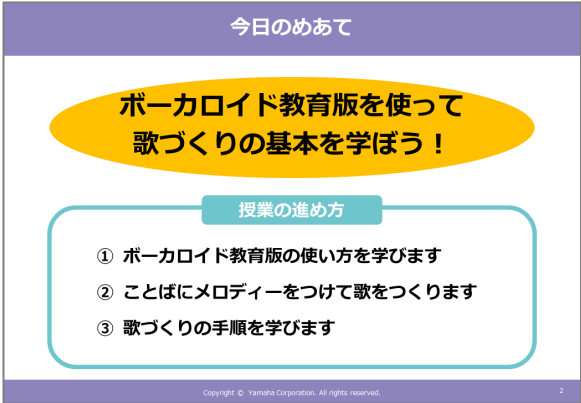
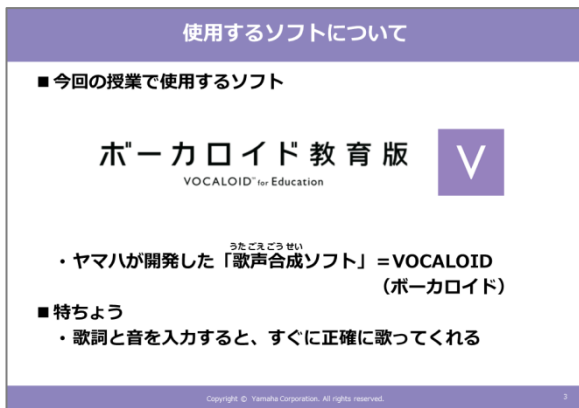


■参考シナリオ（第一時）

過程	主な学習活動と教師の働きかけ	留意点
<p>45分 導入 5分</p>	<p>■単元のめあてを確認する。(v03_bansho1.pptx : P1)</p>  <p>T: 今回の単元ではグループに分かれて、オリジナルの歌詞にメロディーをつけて歌をつくってもらいたいと思います。 授業全体の流れとしては、まず初めの時間で言葉にメロディーをつけて歌づくりの基本を学びます。 その次の時間では自分たちで準備したオリジナルの歌詞にメロディーをつけて8小節の歌をつくります。 最後の時間では、つくった歌に磨きをかけて仕上げていきます。そして完成した作品をグループごとに歌って発表してもらいたいと思います。</p> <p>■本時の学習のめあてを確認する。(v03_bansho1.pptx : P2)</p>  <p>T: 今日の授業では、タブレット端末を使って「ことばにメロディーをつけて歌をつくる」という音楽づくりに挑戦してみましょう。 ところで皆さん、曲や歌をつくったことがありますか？ C: つくったことはありません。 C: 替え歌ならあるよ。 T: そうですね。なかなか曲や歌をつくる機会はないと思います。 今日は歌づくりの基本を学んでいきましょうね。 授業の流れとしてはまず、使用するソフト「ボーカロイド教育版」の使い方を学びます。 次に「ボーカロイド教育版」を使って短い言葉にメロディーをつけてみます。 最後にまとめとして、歌づくりの手順を学んでいきましょう。</p>	<p>★教師用 PC と大型モニターをつないでパワーポイントを使って説明する。</p>

■授業で使用するソフトの紹介をする。(v03_bansho1.pptx : P3)



T: では早速、使用するソフト「ボークロイド教育版」の使い方を学んでいきましょう。

T: 「VOCALOID (ボークロイド)」って聞いたことはありますか？ (知っている人は?)

C: ポカロ曲をよく聴きます。

C: いろいろな歌声のキャラクターがいるよね。

T: そうですね。正確にはヤマハが開発した歌声合成ソフトのことを「VOCALOID」とよぶそうですよ。

ボークロイドの特徴は歌詞と音を入力すると、すぐに正確に歌ってくれることです。

一度ボークロイドの歌声を聴いてみましょうか。(「momi ji. vsqx」を再生)

それではボークロイド教育版の使い方を順番に説明していきます。

★教師用タブレット端末でボークロイドの歌声を聴かせる。

■ボークロイド教育版の画面説明をする。(v03_bansho1.pptx : P4~5)



T: まず、ボークロイドを立ち上げるとこの画面が出てきます。操作方法は簡単です。

はじめに上の紫色の部分に、歌詞を入力していきます。

歌詞を入力したら鉛筆ツールを選択し、音を入力します。

音を消したい時は隣の消しゴムツールで消します。

画面は縦の軸が音の高さ、横の軸が音の長さを表しています。

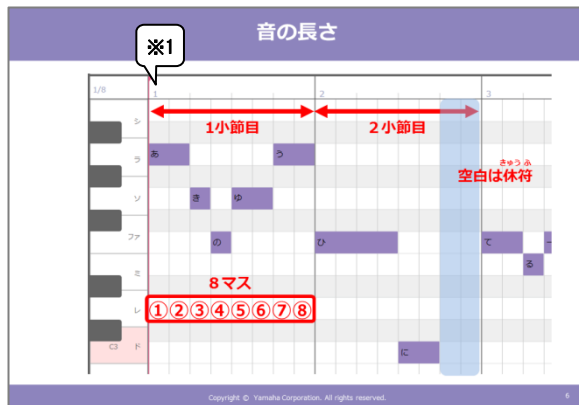
音を入力したら、上の再生ボタンを押すと歌声が再生され、隣の四角のボタンで停止します。

入力した音がおかしかったら簡単に修正もできるので、修正したら聴き直し、また修正し、といろいろと試しながら歌をつくっていきましょう。

★まだ児童にはタブレット端末は触らせない。

展開
35分

■ボーカロイド教育版の画面から音の長さや音の高さについて理解させる。
(v03_bansho1.pptx : P6~7)



★左上に表示してある「1/8」を変更すると、最小の入力音符の単位（マスの数）が変更できる。今回は1/8の状態で使用するので、特にこの箇所の説明はしない。

★1マス=8分音符という説明を補足でもよい。

T: 次は音の長さについて詳しく説明します。
まず、上の1、2・・・(※1)と書いてある数字は小節を表しています。左から1小節目、2小節目・・・と音楽が流れていきます。
次に1小節の中のマスの数を見てください。1小節の中に何マスあるか分かりますか？
C: 8マスです。
T: そうですね。今回は1小節の中に8マスある状態で使っていきます。
1小節に8マスあることは覚えておいて下さいね。
また、音符を何も入力しない部分は休符になります。休符を使いたいときは何も入力せずに空白にしましょう。



T: 音の高さについて説明します。左に鍵盤の絵があるので分かりやすいと思いますが、上に行けばいくほど音が高くなり、下にいくほど低くなります。
ここでポイントが2つあります。1つ目は赤く表示されている「C3」の「ド」で、ここが真ん中の「ド」です。ボーカロイドは入力した音をそのまま歌ってくれますが、皆さんができあがったメロディーを歌うときに、高すぎたり低すぎたりすると歌いにくいですよ。なのでC3の「ド」から上のC4の「ド」の更に上の「ミ」くらいまでの間で歌をつくりましょう。
2つ目のポイントはグレーの帯の部分が黒鍵になっていることです。黒鍵は#やbの音なので効果的に使うとおしゃれな感じがしますが、使いすぎると曲に違和感があるかもしれません。なので今回は白鍵だけを使うようにしましょう。

■「きみとぼくとは ともだちだ」にメロディーをつける。

- ・ボーカロイド教育版に歌詞とリズムを入力する。

(v03_bansho1.pptx : P8~11)

T: それでは実際に練習として、言葉にメロディーをつけていきましょう。



T: 今日は「きみとぼくとは ともだちだ」という歌詞を使って2小節の歌をつくります。

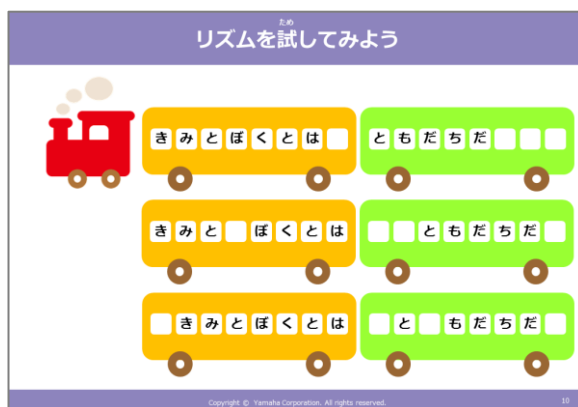
今日のメロディーづくりのルールを説明しますから、よく聞いて下さいね。

まず、1、2、3小節目とありますが、1小節目はカウントなので何も入力しません。2小節目、3小節目にメロディーを入力していきます。

そして1小節の中には8個のマスがありますね。皆さん、先ほどのボーカロイド教育版の音の長さの説明の時に1小節に8マスあったことを覚えていますか？あれと同じです。

「きみとぼくとは」は7文字ですね。「ともだちだ」は5文字です。今日は「きみとぼくとは」を2小節目の中に収めます。「ともだちだ」は3小節目の中に収めます。それぞれ前や後ろにはみ出さないようにしましょう。

★次の時間では伴奏に合わせたメロディーづくりを実施させる。伴奏には1小節目にカウントが入っているため、本時でも1小節目には入力しないように指導する。



T: そうすると、いろいろなリズムが考えられますね。

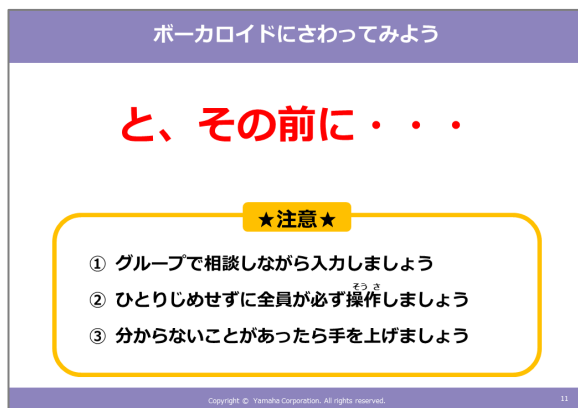
「きみとぼくとは (休)」「ともだちだ (休) (休) (休)」

「きみと (休) ぼくとは」「(休) (休) ともだちだ (休)」

「(休) きみとぼくとは」「(休) と (休) もだちだ (休)」

休符だけでなく、音を伸ばしてみてもいいですね。

「きみとーぼくとは」「ともだちだー (休) (休)」

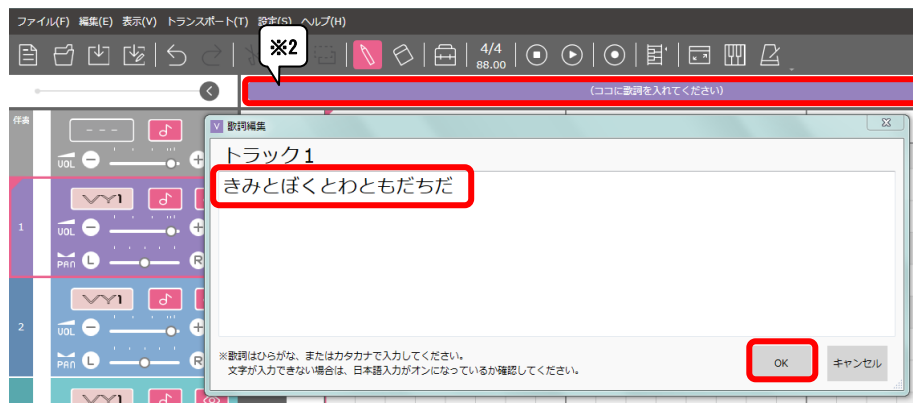


T: それでは、考えたリズムを実際にボーカロイド教育版に入力していきましょう。

その前に皆さんにグループワークの約束事を言うておきます。
(注意点を説明する。)

T: では、歌詞とリズムをボーカロイド教育版に入力していきますが、最初は一緒に操作していきましょう。
まず、ボーカロイド教育版のソフトを立ち上げます。

★大型モニターと教師用タブレット端末をつなげて実際に操作しながら提示する。



T: 画面が開いたら、まずは歌詞を入力してみましょう。

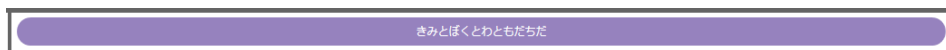
上の紫色の部分(※2)をタップすると、歌詞の入力画面が開きます。

入力画面が出てきたら、キーボードで歌詞を入力します。

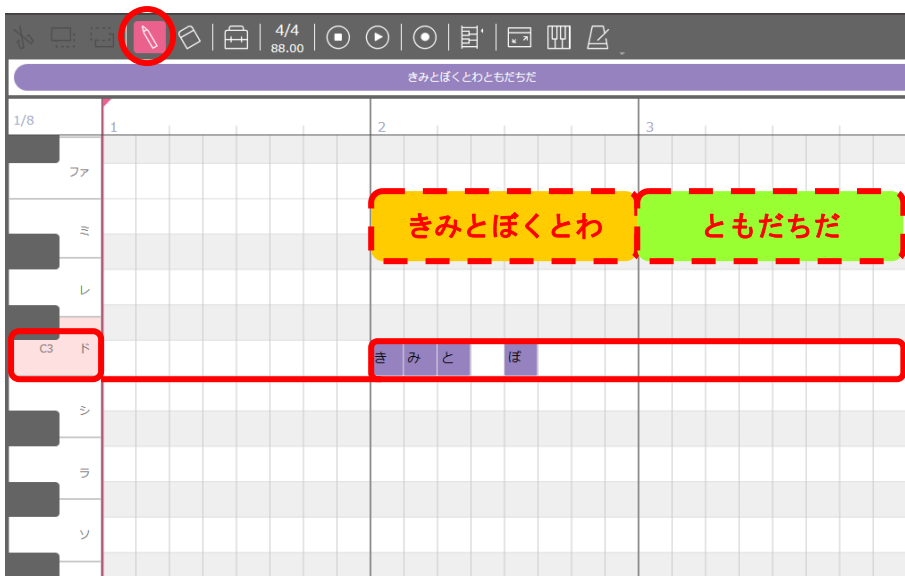
歌詞はすべてひらがなカタカナで入力してください。

そして「きみとぼくとは」の「は」を「わ」と入力しましょう。書き言葉では「は」とするのが正解ですが、ボーカロイドはそのまま「ハ」と歌ってしまうので注意してくださいね。ボーカロイドではその他にも例えば「未来へ向かって」の「へ」も「え」と入力します。つまり、発音通りに入力するように注意しましょう。

ここまで入力できたら OK をタップしてください。



T: 上の紫色の部分に歌詞が表示されたか確認しましょう。



T: 歌詞が入力できたら、次にリズムを入力していきます。
 まずはえんぴつツールをタップして、リズムを入力していきましょう。
 何小節目から入力するか覚えていますか？
 C: 2小節目からです。
 T: その通り、1小節目はカウントなので、2小節目からの入力でしたね。
 「きみとぼくとわ」を2小節目に、「ともだちだ」は3小節目の中にそれぞれ収めることも忘れずに。
 今は音の高さは考えず、真ん中のドの音にリズムだけを入力してみましょう。
 ではグループで話し合って、リズムを入力してください。(5分程度)

T: リズムが入力できたら、再生ボタンをタップして聴いてみましょう。
 同じ音で歌っていましたがどうでしたか？
 C: 宇宙人みたい。
 C: お経みたいでつまらないね。
 T: そうですね。ではここからは音の高さを変えていきましょう。

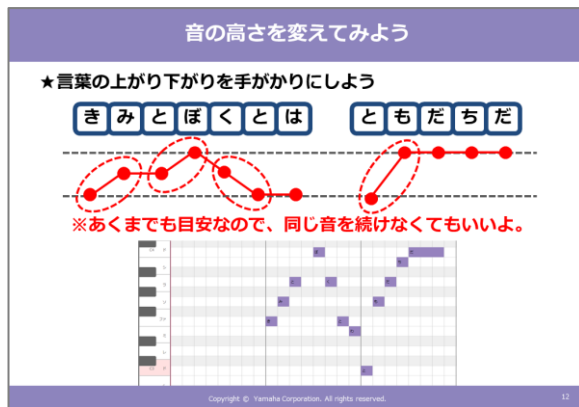
・言葉の抑揚を手掛かりにメロディーをつける。(v03_bansho1.pptx : P12)

T: 音の高さは、言葉の上がり下がりを手がかりにしてつくります。
 日本語には言葉の上がり下がりが違うと、意味が変わる言葉がたくさんあります。
 例えば「アメが降る」。空から降ってくる「雨」とキャンディーの「飴」は言葉の上がり下がりが違っていていますね。そうすると「アメが降る」の意味が違ってきてしまいます。
 その他にどんな言葉が思いつきますか？
 C: 「はし」！食べるときに使う「箸」と、川に架かっている「橋」は違うよね。
 C: 「かき」。果物の「柿」と、海にいる「牡蠣」も言葉の上がり下がりが違うよ。
 T: その通りですね。
 歌にした時も同じです。言葉の上がり下がりとは逆の音の上がり下がりになってしまうと、意味が違って聴こえてしまいます。
 では「きみとぼくとは、ともだちだ」という言葉はどんな音の上がり下がりなのか、見てみましょう。

★実際に2、3音入力して提示すると分かりやすい。その際に、音の長さの修正方法も説明する。



★大型モニターをパワーポイントに切り替えて説明する。



T: (ジェスチャーを交えながら)「きみとぼくとは ともだちだ」。
ただし、この上がり下がりはいくまでも目安なので、同じ音が続いているところはずっと同じ音を続けなくてはいけないというわけではありません。

重要なのは、上がったたり下がったりしている斜めの線（点線の丸）の部分です。それ以外は自由に音を変えてみましょう。

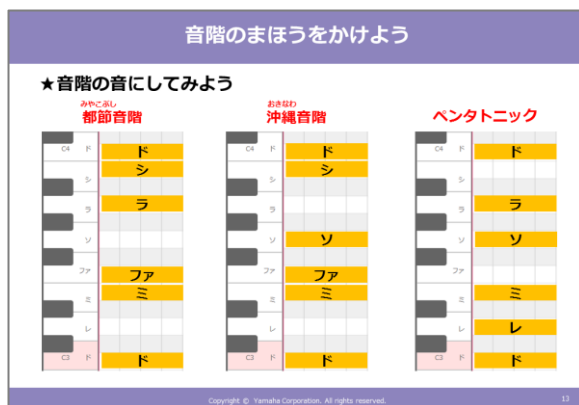
T: ではグループで話し合っ、メロディーをつけていきましょう。
(5分程度)

音の高さは変えたい音を押さえたまま、上下すると簡単に変わります。今日はグレーの部分の黒鍵は使わずに、白鍵の部分だけを使ってメロディーをつくっていきましょう。

入力した音を再生して確認しながら進めていきましょうね。

T: メロディーができたグループも、まだ悩んでいるグループもいると思いますが、最後にメロディーに音階の魔法をかけて、より音楽的な歌に仕上げていきたいと思っています。

・音階の魔法をかける。(v03_bansho1.pptx : P13)



T: 音階の魔法とは、このオレンジ色がついている決まった音だけを使うことで、歌・メロディーの雰囲気を変えられることができる魔法です。都節音階（ドミファラシ）を使うと「さくらさくら」のような日本風の歌になり、沖縄音階（ドミファソシ）を使うと沖縄の歌のようになります。またペンタトニック（ドレミソラ）の音階を使うと、少しおしゃれで都会的な雰囲気の歌になります。

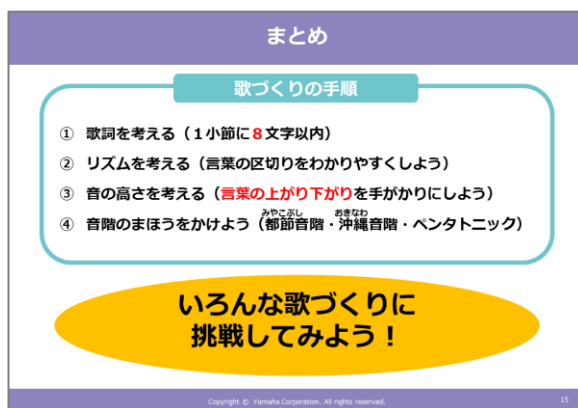
T: 今回は沖縄音階（ドミファソシ）の音を使って、皆さんがつくった「き

★大型モニターと教師用タブレット端末をつなげて実際に2、3音音の高さを変えてお手本を見せると児童の理解も深まる。



★音階早見表 (v03_onka i.pdf) をグループごとに配布。

	<p>みとぼくとは ともだちだ」のメロディーに音階の魔法をかけていきましょう。</p> <p>やり方は簡単です。今、皆さんが入力したメロディーの音を「ド・ミ・ファ・ソ・シ」のいずれかの音にします。</p> <p>例えばメロディーの音に「ラ」の音を使っていたら、近くの「ソ」か「シ」に移動させます。同じように「レ」を使っていたら「ド」か「ミ」に移動させます。</p> <p>では、グループで協力してやってみましょう。(5分程度)</p> <p>T: メロディーの音をすべて「ド・ミ・ファ・ソ・シ」のいずれかの音に変更できたら、再生をして聴いてみましょう。</p> <p>どんな感じになりましたか?</p> <p>C: 沖縄っぽい歌になりました。不思議!</p> <p>T: そうですね。ではいくつかのグループの歌を聴いてみましょうか?</p> <p>■いくつかのグループの作品を紹介する。</p> <p>T: どのグループもとても素敵なメロディーができましたね。</p>	<p>★やり方が分からず戸惑っているグループには教師も話し合いに参加して適切な助言を与える。</p> <p>★児童のタブレット端末を大型モニターにつないで発表する。</p> <p>★「kimiboku_okinawa.vsqx」を参考に聴かせてもよい。</p>
<p>ま と め 5 分</p>	<p>■歌づくりの手順を確認する。(v03_bansho1.pptx : P14~15)</p> <p>T: 皆さん、歌づくりはいかがでしたか?</p> <p>今日学習した方法は、いろいろな歌づくりに応用できます。</p> <p>今日は「きみとぼくとは ともだちだ」という歌詞にメロディーをつけましたが、1小節に8文字以内の言葉をつなげればいろんなオリジナルの歌をつくることができます。</p> <p>例えば、「きょうはカレーが (7文字) たべたいです (6文字)」という言葉でも歌がつけられますね。</p> <p>また、「しずおかけんの (7文字) めいさんひんは (7文字) おちゃとみかんが (7文字) ゆうめいです (6文字)」と4つ言葉をつなげれば、4小節の歌をつくることができます。</p> <p>つまり1小節8文字以内の言葉をどんどんつなげていくことによって、小節数を増やして長い歌もつくれるようになります。</p>	<p>★大型モニターをパワーポイントに切り替えて説明する。</p>



T: それでは最後に本日のまとめとして、歌づくりの手順をおさらいしましょう。ワークシートの「歌づくりの手順」の部分の空欄を各自埋めていただきますね。

まず初めに1小節に8文字以内の歌詞を考えます。今日は「きみとぼくとはともだちだ」という歌詞を使いましたが、8文字以内の言葉をつなげればいろんな歌詞ができそうですね。

次にリズムを考えます。休符を入れる位置や、伸ばす位置を考えましたが、その時に言葉の区切りをわかりやすくすると良いと思います。

「きみとぼ(休)くとは」「ともだ(休)(休)ちだ(休)」だと、なんだか変ですよ。

そして音の高さを変えました。言葉の上がり下がりを手がかりにすることで、意味がわかりやすいメロディーになりましたね。また皆さんが歌いやすいメロディーは、真ん中の(G3の)「ド」から上のG4の「ド」の更に上の「ミ」くらいまでの間の音ということも学びました。

最後に音階の魔法をかけました。音階の魔法をかけるだけで、歌の雰囲気が変わりましたよね。

この手順を忘れずに、これからいろんな歌づくりに挑戦してみましよう。

■ワークシートに今日の授業の感想と自己評価を記入する。

・児童に授業の感想を発表させる。

C:こんなに簡単に歌ができると思わなかったので、うれしかったです。

C:グループのみんなと協力できてよかったです。

C:もっと長い歌をつくりたいです。

・次回の授業への導入

T:今日はボーカロイド教育版を使って言葉にメロディーをつけて、歌づくりの手順を学びました。

次回はいよいよオリジナルの歌詞にメロディーをつけていきます。

ボーカロイド教育版の操作方法や、歌づくりの手順など、今日学んだことをしっかりと生かしていきましょう。

★ワークシート 第一時 (v03_sheet1.pdf) を全員に配布。